

電事連会長 定例会見要旨

(2014年3月14日)

電事連会長の八木でございます。どうぞよろしくお願いたします。

本日は、「この冬の電力需給状況」と「電力各社の収支状況」の2点について申し上げます。

なお、今週11日で、東日本大震災から3年となりました。本日のご説明に先立ちまして、あらためて、私どもの思いを申し上げます。

福島第一原子力発電所の事故により、今なお、多くの皆さまに多大なるご迷惑とご心配、ご負担をお掛けしておりますことを、同じ電気事業に携わる者として、あらためてお詫び申し上げます。

昨年末には、国が前面に出る形で、福島復興の加速化に向けた新たな対策が打ち出されましたが、こうした取り組みにより、被災されました皆さまの一日も早い復興に結びつくことを、切に願っております。また、廃炉や汚染水対策などにつきましては、引き続き、業界全体で支援してまいる所存であります。

私ども事業者は、こうした事故を二度と起こさないという強い決意のもと、震災直後から、徹底した安全対策に努めるとともに、新規制基準の内容を踏まえながら、安全性向上のために必要な対策を講じてまいりました。今後とも、原子力発電所の更なる安全性・信頼性の確保に向け、たゆまぬ努力を続けることにより、社会の皆さまからの信頼回復に努めてまいります。

1. 「この冬の電力需給状況」について

それでは、本日1つ目のテーマであります「この冬の電力需給状況」についてご説明いたします。

この冬は、北海道におきまして、6%以上という数値目標付きの節電のお願いをさせていただいておりましたが、先週7日をもちまして終了いたしました。とりわけ気象条件の厳しい北海道の皆さまにおかれましては、ご不便

をおかけいたしましたことに深くお詫び申し上げますとともに、ご協力に
対しまして、心より御礼申し上げます。

なお、全国における数値目標を伴わない節電のお願いにつきましては、今
月 31 日までとなっておりますので、引き続きご協力を賜りますよう、お願い
申し上げます。

それでは、電力需給の実績などにつきまして、お手元の資料に沿ってご説
明させていただきます。まず、気温の状況であります。資料の左上をご覧
いただきたいと思います。この冬は、12 月から 1 月にかけて、前年に比
べて高めに推移した一方で、2 月前半は、太平洋側を中心に 2 度の大雪に見
舞われるなど、気温の低い日が続きました。

こうした中、10 社合成の最大電力は、左下のグラフにございますが、2 月
14 日の 11 時に 1 億 4,934 万 kW を記録いたしました。昨年と比べますと、
384 万 kW、2.6%の増となりました。

また、これに対する供給力は、資料の右上にございますが、1 億 6,163 万
kW で、使用率は 92%となりました。地域別では、東 3 社では、同じく 2 月
14 日の 18 時に 6,787 万 kW、中西 6 社では、同日 11 時に 8,216 万 kW を記録
し、使用率はいずれも 93%となりました。

この日は、夜から関東甲信地方で記録的な大雪となり、全国の平均気温も
1.6℃と、冷え込みの強い一日となりました。このため、中部、関西で使用率
が 95%、東京で 94%に達するなど、各地で厳しい需給状況となりました。

このように、今年の冬は、昨年と比べて電力需要が伸びましたが、各社に
おける最大限の供給力の積み増し努力と、何よりも皆さまからの節電のご協
力によりまして、何とか安定供給を維持することができました。

しかしながら、原子力発電の稼働がない中で、高経年プラントも含めまし
て、火力発電をフル活用する、綱渡りの供給態勢が続く状況に変わりはない

ません。特に、北海道電力管内では、昨年12月に大型プラントである苫東厚真4号機の計画外停止が発生し、大変厳しい需給運用になったと聞いております。また他のエリアにおきましても、火力発電の計画外停止が少なからず発生しており、そうしたトラブルリスクを考慮いたしますと、予断を許さない状況にあるものと考えております。

今後まもなく、夏に向けた需給検証も開始されることになるとは思いますが、原子力発電所の再稼働の見通し次第では、大変厳しい状況が続くものと考えております。私どもといたしましては、猛暑による需要増や設備トラブルなどの変動リスクも踏まえ、今後しっかりと検証を行った上で、需給両面において最大限の取り組みを進めてまいります。

2. 「電力各社の収支状況」について

続きまして、「電力各社の収支状況」について申し上げます。これまでのところ、電気料金の値上げや経営効率化による収支改善はあるものの、原子力発電所の再稼働が見込めない中で、火力燃料費は、過去最大でありました昨年度を上回る水準で推移しております。

このため、今年度の収支見通しを出しております9社のうち6社が経常赤字を予想し、うち5社は3年連続の経常赤字を見込むなど、電力業界は、かつて経験したことのない極めて厳しい経営環境にあると考えております。

こうした中、先月、北海道電力が、電気料金の再値上げを検討するという表明をいたしました。各社の料金改定につきましては、電事連会長としてコメントする立場にございませんが、既に値上げさせていただいた会社におきましても、改定時に織り込んだ原子力プラントの再稼働時期がずれ込んでおり、燃料費の大幅な負担増を解消することが困難な状況が続いております。

私どもの思いといたしましては、一日でも長く今の電気料金を維持したいと考えており、各社におきまして、徹底した経営効率化に取り組んでいると

ころでございます。しかしながら、仮に原子力の停止が長期にわたり、厳しい財務状況が続くことになれば、あくまで一般論ではありますが、事業者として最大限の経営努力をしたとしても、再値上げという苦渋の選択について、検討せざるを得ない場合も起こり得るのではないかと考えております。

さらに、回復基調にあります日本経済をしっかりと下支えしていくためにも、できるだけ低廉な電気を安定してお届けする必要があると考えております。そのためには、安全の確保を大前提に、原子力発電を引き続き活用していくことが、是非とも必要であります。

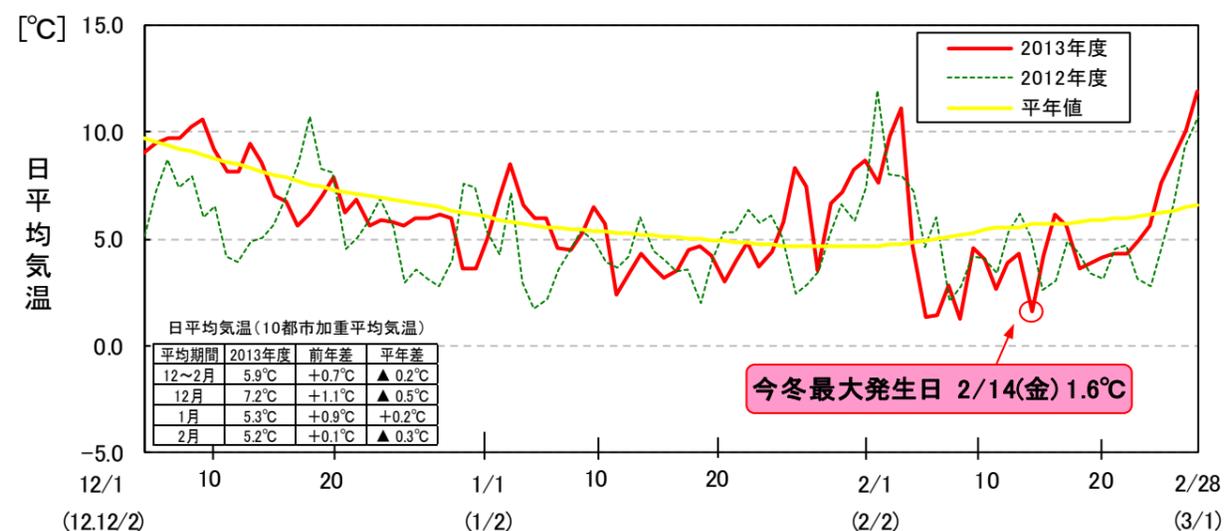
私どもといたしましては、原子力規制委員会の審査に真摯かつ迅速、的確に対応するとともに、立地地域をはじめ広く社会の皆さまからご理解を賜りながら、一日も早い再稼働に向けて、全力で取り組んでまいり所存であります。

以 上

今冬（12月～2月）の電力需給について

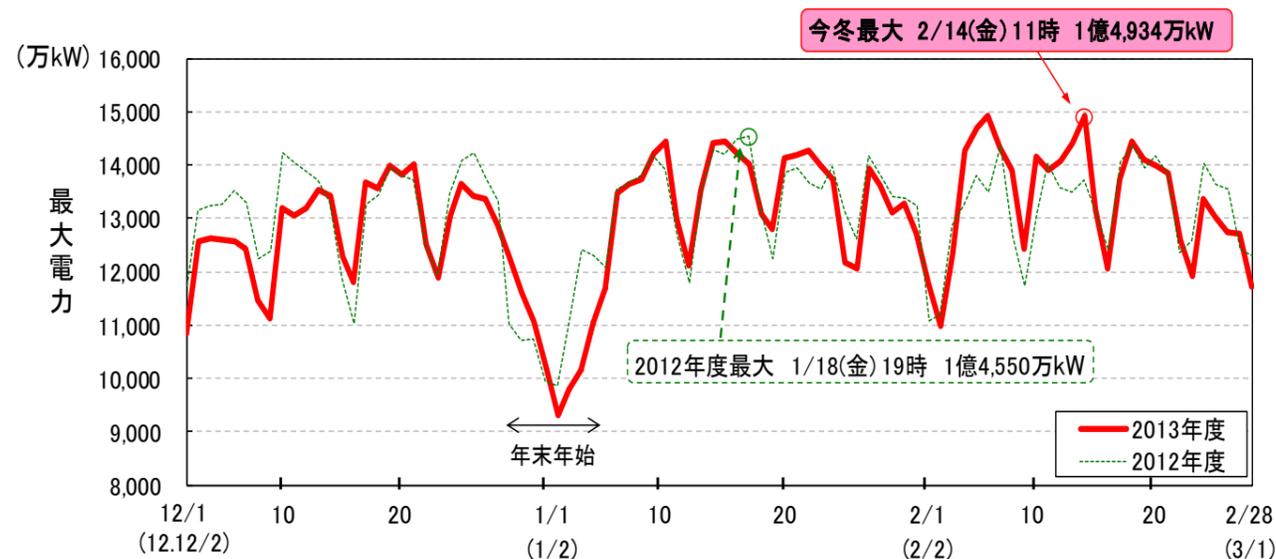
1. 気温状況（12月～2月）

- 12月から1月の日平均気温（10都市加重平均）は、前年に比べて高めに推移（12月+1.1℃、1月+0.9℃）した一方で、2月前半は前年に比べて気温が低い日が続いた（上旬▲1.4℃、中旬▲0.2℃、下旬+2.4℃）。
- 2/14（金）から2/16（日）にかけて、関東甲信地方を中心に過去の最深積雪の記録を上回る大雪となった。



2. 10社合成最大電力実績（12月～2月）

- 10社合成最大電力は、2/14（金）の11時に発生した1億4,934万kWで、対前年度比+384万kW（+2.6%）であった。【参考】冬期の過去最大電力：1億5,910万kW 2008年2月13日19時
- 最大電力が発生した2/14（金）の日平均気温（10都市加重平均）は1.6℃であり、前年度の最大電力発生日（1.9℃）と比べると▲0.3℃であった。



3. 需給バランスと各社実績

- 10社合成最大電力発生時の供給力は、1億6,163万kWで、使用率は92%であった。
- 地域別では、東3社の合成最大電力は、2/14（金）の18時に発生した6,787万kWで、供給力7,317万kWに対する使用率は93%であった。
中西6社の合成最大電力は、2/14（金）の11時に発生した8,216万kWで、供給力8,875万kWに対する使用率は93%であった。
- 各社別最大電力については、北海道を除く9社で前年度を上回る結果となった。

（単位：万kW、%）

会社名	最大電力（万kW）					
	供給力	使用率	発生日時		前年度比	
10社合成	14,934	16,163	92	2/14	11時	102.6
東3社合成	6,787	7,317	93	2/14	18時	102.5
中西6社合成	8,216	8,875	93	2/14	11時	103.9
北海道	540	602	90	1/17	18時	97.9
東北	1,395	1,569	89	2/5	18時	101.7
東京	4,943	5,234	94	2/14	18時	104.2
中部	2,365	2,484	95	2/14	11時	104.7
北陸	516	564	92	2/5	11時	102.3
関西	2,523	2,630	95	2/14	11時	103.7
中国	1,039	1,140	91	2/6	19時	104.4
四国	487	529	92	2/6	19時	102.1
九州	1,438	1,554	93	2/13	19時	101.1
沖縄	108	154	70	2/10	20時	103.9

（注）各社の使用率は端数処理の関係により、最大電力/供給力と一致しない場合がある。

<参考> 10社合成最大電力の推移

